

学力向上フロンティアスクール中間報告

都道府県名	高知県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三原村立三原小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	0	6	13
児童数	21	12	15	19	13	19	0	99	

II 研究の概要

1. 研究主題

一人ひとりが課題意識を持って、自ら学ぶ児童の育成 —基礎・基本の確実な定着—

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生（算数） ・ 2年生（算数） ・ 3年生（国語） ・ 4年生（算数） ・ 5年生（国語） ・ 6年生（算数） 	<ul style="list-style-type: none"> 算数科における具体物及び半具体物の効果的な活用について研究を深める。 TTの授業研究を深めるためには算数が適した教科と考えたから。 基礎学力の定着には、国語科における読解力の指導が不可欠である。 少人数学習の指導の前段として、グループ型TTの授業研究を深める。 基礎学力の定着には、国語科における読解力の指導が不可欠であると考えており、特にこの学年では、文学教材で基礎学力を身に付けさせるための指導方法を研究する。 CRTの分析結果により、児童の数学的思考力を伸ばす必要性が認められたから。
--	--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 「一人ひとりが課題意識を持って、自ら学ぶ児童の育成」 —基礎・基本の確実な定着— ○ 研究の見通し 本年度は、学力向上フロンティアスクールの指定を受け、研究テーマを昨年度の「自ら学ぶ授業の創造」から、「自ら学ぶ児童の育成」とした。このことは、従前のように授業改善のみならず、児童の学校生活全般を通して、基礎・基本の力を身に付けさせるためのさまざまな手法を研究していくことを意味し、このことによって、児童の学力向上を図ることができると思う。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> 1. 研究内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 国語と算数を中心とした研究 (2) 学習指導法の研究 (3) 教材の開発と実践 (4) 評価の工夫 (5) 加力学習について 2. 研究方法 <ul style="list-style-type: none"> (1) 校内役割分担の明確化 (2) 指導体制の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ① TT指導のあり方 ② 少人数指導による習熟度別学習等 ③ 順序選択学習 (3) 学校評価（児童・保護者・地域・教職員）の実施と生かし方
--------	---

	(4) 計算タイム・漢字タイム・加力の時間の工夫
平成16年度	<p>○ テーマ 「一人ひとりが課題意識を持って、自ら学ぶ児童の育成」 —基礎・基本の確実な定着—</p> <p>○ 研究の見通し 来年度は、学力向上フロンティアスクール指定の2年目を迎え、15年度の取り組みのよさや改善点を活かしつつ、総括として評価活動も充実させていく。それらの取り組みによって、学力向上を図り、さらに指定終了後にも生きる取り組みとなると考える。</p> <p>○ 研究の内容・方法</p> <p>1. 研究内容</p> <p>(1) 国語と算数を中心とした研究 (2) 学習指導法の研究 (3) 教材の開発と実践 (4) 評価の工夫 (5) 加力学習の充実・発展</p> <p>2. 研究方法</p> <p>(1) 校内役割分担の明確化 (2) 指導体制の工夫</p> <p>① TT指導の充実 ② 少人数指導の充実 ③ 習熟度別学習や順序選択学習 等</p> <p>(3) 学校評価（児童・保護者・地域・教職員）の実施と生かし方 (4) 計算タイム・漢字タイム・加力の時間の工夫 (5) 通知表や、単元のまとめのテスト等、評価の研究</p>

(3) 研究推進体制

企画委員会（校長，教頭，研究主任，少人数指導担当）
↓
校内研

III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 少人数学習についての理論研究を行う中で、その理解が進み、校内での指導方法の名称を統一できた。
- ・ これまで、TTの授業では主副型学習しか取り組んでこなかったが、TTのグループ型学習や、少人数学習の順序選択学習など多様な学習形態に取り組むことができるようになってきている。また、これらの学習形態に対する、児童の反応を見るためにアンケートを実施したが、ほとんどの児童は、「楽しかった」「今後もやりたい」といった好意的な反応を示しており、学習意欲の向上に役立っているものと思われる。

TTコース別グループ学習の感想

	3年生(人/15人)	4年生(人/19人)	6年生(人/19人)
楽しかった	12	13	14
まあまあ楽しかった	2	4	5
ふつう	1	0	0
あまり楽しくなかった	0	2	0
楽しくなかった	0	0	0
今後もやりたい	12	17	17
やりたくない	3	2	2

- * あまり楽しくなかったという子は、もっとコースを増やしてもらいたいという意見や、一人でやりたいという意見だった。

少人数課題別学習の感想

	6年生 (人/19人)
楽しかった	12
まあまあ楽しかった	4
ふつう	3
あまり楽しくなかった	0
楽しくなかった	0
今後もやりたい	16
やりたくない	3

- ・ 先進校の視察や、研修会に参加することにより、基礎・基本を習得させるための様々な技術や方法を学ぶことができた。
- ・ 授業研究では、従来の算数科だけではなく国語科の研究授業も行い、学力の土台となるものについての話し合いも深められた。また、外部の講師を招聘し指導を受ける中で、先進校の実践例なども聞け、授業方法の改善に役立った。
- ・ 昨年までの計算タイムに加えて、週一回の漢字タイムを設けることにより、全校を通して漢字習得に対する機運を作ることができた。
- ・ 11月より金曜日の放課後を、加力の時間として希望者を対象に加力学習に取り組んできた。現在83名の参加があり、参加者は意欲的に取り組んでいた。

加力学習の感想

	1年(人/18人)	2年(人/7人)	3年(人/16人)	4年(人/15人)	5年(人/13人)	6年(人/14人)
加力が楽しかった	15	4	14	6	1	8
ふつう	3	3	2	6	11	4
楽しくなかった	0	0	0	3	1	2
加力はためになった	16	6	13	6	4	9
ふつう	1	1	3	5	8	4
あまりためにならなかった	1	0	0	4	1	1

2. 今後の課題

- ・ 少人数担当教員の人数の関係もあるが、少人数学習がまだ全体のものになっていないので、校内の役割分担を整理し、全学年で、少人数学習に取り組んでいけるようにしたい。
- ・ 少人数学習に取り組んできたことにより、児童の学習理解や、意欲といった点で一定の改善は見られたものの、教師の算数科の授業改善は進んでいない点が多いので、全校を挙げて取り組んでいける内容を精選し授業の質を向上させたい。
- ・ 今年度は主に算数科での少人数学習に力点を置いてきたので、今後は国語科での少人数学習にも取り組んでいきたい。
- ・ 加力の時間の中では、高学年の子ども達が熱心にプリント学習に取り組む姿が見られたが、低学年の子ども達にとってやや面白みにかける面があったので内容の面で改善の余地があるように思われる。また、全職員が加力の指導にかかり多くの労力が注がれた点は評価できるが、これが負担になってきている点も否めないなので、より効率的な方法を模索していく必要がある。
- ・ 来年度は、通知表や、単元のまとめのテストの取り扱いについても共通理解を図っていく必要がある。

IV 学力把握のための学校としての取り組み

- CRT 検査…2月に算数と国語の CRT 検査を実施して、3月の校内研の中で、1年間の指導の成果と課題を明らかにし、次年度の指導に生かすようにしている。
- 100マス計算…定期的に100マス計算の到達状況を把握し、計算力の向上を確認する。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 研究の成果として、公開授業を検討しているが、期日等細かなことは未定。

◇次の項目ごとに、該当する個所をチェックすること（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級

13～18学級 19～24学級

24学級以上

【指導体制】 少人数指導 TTによる指導

一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科

生活 音楽 図画工作 家庭

体育 その他

【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】 有 無